

第15回 外国語コンテスト

英語部門

第15回目の英語スピーチコンテストは、11月9日に開催され、8名の参加者があった。内訳は、現代中国学部2名、経営学部2名、法学部4名であり、2年生から4年生までの学年の学生が熱い戦いを繰り広げた。英語の場合は、自分でタイトルを決めて、500語以内で英文を作成して、原稿を見ないでスピーチをするか、或いは原稿を読むという形を取っている。8名の参加者のテーマは、環境問題、夢を見ることの重要性、読書の面白さ、そして外国旅行で得た体験談など、幅広いものであった。審査員は、本学法学部のジョン・ハミルトン先生と愛知学院大学から審査員として来ていただいたイギリス人の先生であった。上位3名までの入賞者は以下の通りである。

- | | | |
|----|---------|-------|
| 1位 | 08J1323 | 浅井 智也 |
| 2位 | 08J1391 | 饒 応豪 |
| 3位 | 06M3281 | 鈴木 亮太 |

1位の浅井智也さんの「My Funny Hobby」、2位の饒応豪さんの「Why is it good for us to read?」、3位の鈴木亮太さんの「Six Bridges over the River Tyne in New Castle」等々、内容が豊かで独創的なものが多くて、審査員の2人の先生方も、感心してみえた。審査は内容、文法、発音、表現力の4つの観点から評価をし、50点満点で採点がされた。次回も多くの学生に参加してもらい、英語スピーチの力を伸ばしてもらいたいと思っている。

なお、2009年4月に大妻女子大学へ移籍された安藤聡先生からは、スピーチコンテスト当日に激励の電報が届いた。感謝申し上げる。

(山田晶子)

ドイツ語部門

2009年度の名古屋語学教育研究室主催第15回外国語コンテスト・ドイツ語部門の本選が、2009年11月20日(金曜日)の午後4時40分より名古屋校舎中央教室棟3階にある第1研修室でおこなわれました。その結果を報告したいと思います。

今回の課題は、「Ein Haus im Grünen」という題名のA4で1ページ弱のものを選びました。内容は、多くのドイツ人にとって憧れの生活である別荘暮らしをあつかったものです。夢見ていた別荘生活を実際に始めるにあたっての数々の苦労と不便などが、それでも前向きにかつユーモアにみちた文体で書かれたものです。

参加者にとって新規のテキストとなるため少し難しく思われたようです、また今年は日程が早まった都合で練習時間が取りにくかったせいでしょうか、参加者は例年に比べてはるかに少なく5名でした。

審査にあたったのは、ドイツ語の非常勤講師をお願いしている鶴田涼子先生と経営学部所属のドイツ語担当教員である私(島田了)の2人で、表現力と発音・アクセントの合計点で審査を行いました。

決して難易度は高くないテキストですが、授業で扱ったものではないためそれなりの準備と練習が必要です。基本となる発音・アクセントの確かさはもちろんのこと、今回はユーモアのある文体を表現するために深い理解と技術が必要とされます。それでも参加者は各自で熱心に練習に取り組んだ様子で、人数の少なさにもかかわらず、高いレベルで完成度を競う結果になりました。参加者いずれも優劣つけがたく、本当にわずかの差で順位を決めざるを得ませんでした。結果は、第一位(優勝)中山慎也さん(07M3625)、第二位近藤優真さん(08J1275)、第三位は、同じく優劣つけが

たく、その結果該当なしとなりました。

他の外国語に比べて履修者が多いとはいえドイツ語部門ですが、これを言い訳にしないように今後はもっと多くの参加者が集まるようにしたいと思います。

愛知大学でドイツ語を履修する学生の皆さんの関心や質の高さは常々大いに評価しています。名古屋校舎は法学部・経営学部といった社会科学系の学部を中心としたキャンパスのため、決して満足のいく外国語教育の環境でない事は変わりません。それにもかかわらず、ドイツ語に積極的に取り組む学生がすくなく存在するという事は、ドイツ語の担当教員として大変うれしくかつ誇りに思います。

今年は名古屋で、生物多様性条約第10回締約国会議、通称 COP10 が開催されます。生物の多様性が重要である事はいうまでもありませんが、人間のあり方や考え方、生き方や価値観など、精神にかかわるすべての分野においても多様性を認める動きが今後加速されていくことを願っています。また学生の皆さんがさまざまな物事に興味を持ち、多様な考え方ができるようになる、そしてそのことによってより質の高い人生を送ることができるようになることを強く願っています。ドイツ語の学習がそのきっかけのひとつになればこれほど嬉しい事はありません。

最後になりましたが、意欲的な学生の皆さん、語学教育研究室にかかわっている多くの教職員の方みなさんのおかげで今回もこのような意義のあるコンテストを続けることができましたことに、心よりお礼申し上げます。 (島田 了)

フランス語部門

第15回外国語コンテスト・フランス語部門は2009年11月27日、例年のように国際コミュニケーション学部のラッセン先生に審査をお願いして開催した。参加者は1年生：1名、2年生：6名、3年生：1名の計8名であった。前回と比べて、1年生の参加が少なかったこと、4年生の参加者がいなかったことなどから、参加者数が半減した。なお、学部別では、法学部の学生が6名、経営学部の学生が2名であり、次回以降、経営学部の学

生の積極的な参加を期待したい。

さて、フランス語部門においては、例年、あらかじめ与えられた課題文を全員に朗読してもらい、その中で発音や読みの正確さを基準に数名を選抜し、その人たちにその場ではじめて見るテキストを朗読してもらって入賞者を決定するという予選・決戦の2段階方式をとっている。今回もこの方式を踏襲したうえで、予選および決戦で用いたテキストを、1年生用と2年生以上用に分けた。

予選を通過した6名によって決戦が行われ、2年生が1位から3位までを独占する結果となった。1年生でただ一人参加した学生は、予選での成績はトップクラスであったが、決戦においては、綴りの読み間違いが散見されたために入賞を逃がす結果になったのは残念であった。ぜひとも再挑戦していただきたい。1位になった関麻央里さんは、前回、すなわち1年生の時に見事3位に入賞した学生である。このコンテストでは、難しいことを要求しているわけではなく、発音や綴り字の読み方について普段どれだけ注意しながら学習しているかを見るものであり、また、コンテストに参加して練習することによってそれらの点についての復習・整理にもなるのであるから、1年生にもっと参加してもらいたいと思う。

いずれにせよ、積極的に参加してくれた諸君全員の健闘を讃えたい。また、今回入賞を逃した人たちも、今後の学習次第と練習次第で誰にでも入賞の可能性があるから、ぜひとも再挑戦していただきたい。

入賞者は次の通りであった。

- 第1位 08J1006 関 麻央里
- 第2位 08J1136 加納 直美
- 第3位 08J1147 嵐 香織

(田川光照)

中国語部門 (法・経営)

第15回外国語コンテスト中国語法学部・経営学部部門は2009年11月24日(火)午後4時40分より209教室にて行われました。3年生7名、2年生47名、合計54名の学生が参加しました。今回は「北京市民は仕事が終わってからどんな時間を過ごしているのか、昔と今では過ごし方にどんな違

いがあるのか」という内容の文章を、全員に朗読してもらいました。評価基準は、まずピンイン(中国語発音記号)による発音の正しさです。その他に文章の区切り、強弱のつけ方や速度が適切でスムーズであるかをみました。参加者が多く、会場は熱気にあふれ、みんな最後まで熱心に発表を聴いていました。

審査員は経営学部の方田博士先生と法学部の鄭が担当しました。厳正な審査によって、次の入賞者が決まりました。

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 第1位 | 07M3217 | 小澤 寛記 |
| 第2位 | 08J1026 | 佐藤 奈穂 |
| 第3位 | 08M3534 | 木村 將志 |

第1位に入賞した小澤寛記さんは、きれいな発音と朗読のスムーズな流れという点が特に優れていました。彼は現在、上海復旦大学で勉学に励んでおり、中国語のより一層の進歩が期待されます。

第2位の佐藤奈穂さんは落ち着いた安定感のある朗読が印象的でした。普段は照れ屋で人前でしゃべることが必ずしも得意ではありませんが、いざとなると「やるしかない」という粘り強いところがあるように見受けられました。

第3位に関しては決めるのが難しく、3名の候補者が選ばれ第3位決定戦を再度行いました。その結果、木村將志さんが入賞しました。彼も中国語が大好きで、その発音の正確さには目を瞠めるものがあり、期待すべき人材として注目しています。

今回もレベルの高い内容でしたが、いつかピンインなしの朗読コンテストを実施できればと欲が出ています。さて、参加者数はどうなるでしょう。

(鄭 高咏)

中国語部門 (現中)

第15回外国語コンテスト中国語部門(現中)は、2009年11月25日(木)16:40から、課題部門8名、自由部門8名の合計16名が参加して行われました。審査は薛鳴先生と安部の2名で行いましたが、今回は昨年に比べ参加者が増え、特に自由部門は昨年の三倍近い学生がエントリーして激戦となりました。今後もより多くの学生が参加してくれるのを期待しています。また、内容的にもすばらしい発表が多く、毎年このコンテストの審査員をして

いますが、学生諸君の中国語への熱意には本当に感心させられます。

課題部門は、「公鶏接収了教訓(オンドリが得た教訓)」という文章を暗誦してもらいました。内容は、オンドリとアヒルが河辺を散歩していた時、オンドリがアヒルの水かきのある脚をバカにします。これに対してアヒルは、オンドリには翼があるのに高く飛べないではないかと反論します。これを聞いたオンドリは見栄を張って向こう岸まで飛ぼうとしますが、途中で河に落ちてしまい、水かきがあって泳ぎのうまいアヒルに助けられるというお話です。出場者の中には、ちょっとお間抜けなオンドリがアヒルに助けられるシーンをユーモアたっぷりに発表する人もいて、審査をしながらい笑ってしまいました。厳正な審査の結果、次の3名が入賞しました。

- | | | |
|----|---------|--------|
| 1位 | 09C8112 | 竹田 瞳 |
| 2位 | 09C8141 | 岸田 祐未子 |
| 3位 | 09C8071 | 清水 由貴 |

自由部門は8名の参加で、全体にレベルも高く、正に激戦で、審査員としても順位を付けるのに本当に苦労しました。その中で入賞したのは、次の3名です。

- | | | |
|----|---------|--------|
| 1位 | 07C8022 | 中垣 摩耶 |
| 2位 | 07C8037 | 杉浦 貴史 |
| 3位 | 08C8022 | 下地 江梨奈 |

1位の中垣さんは、「一次体験給我带来的变化(私を変えたある体験)」というテーマで、中国でのインターンシップの体験から、様々な事柄に勇氣を持ってチャレンジすることの大切さを、2位の杉浦君は、「理想是什麼?(理想って何だろう)」というテーマで、中国の農村で出会った一人の農民の理想から自らの理想について考えさせられたという実体験を、3位の下地さんは、「越簡単、越快樂(シンプルなほど楽しい)」というテーマで、お金のことなどで悩んだりせず、もっとシンプルな生活を送れば、人生はより楽しくなるという話を、それぞれの確かな中国語及び発音で、表現力豊かに発表しました。(安部 悟)

韓国・朝鮮語部門

第15回外国語コンテスト「韓国・朝鮮語部門」

の本選は2009年11月24日(火)5限目に行なわれた。参加者は23名の予定であったが、うち1名は新型インフルエンザのため、やむをえず欠席。審査員は、韓先生および常石が担当。自由作文および課題文朗読により熱戦が繰り広げられた。毎年のことではあるが、二人の審査員は苦勞した。ほぼ全員のレベルが高かったため、入賞者を選定するのは困難であったからだ。長引いた審査の結果、入賞者は以下のごとくになった。

第1位	06M3506	小笠原 由子
第2位	08J1185	宇佐美 昇子
第3位	06J1103	村瀬 ひと美

1位の小笠原由子さんの自由作文(後ろに掲載)は、大学生活4年間とその4年間にわたる韓国語学習を振り返る内容で、韓国語も大変しっかりしていた。

入選からはもれたものの、08J1133 伊藤泉さん、08M3209 大場陽介君、07M 中村由希恵さん、08M3519 藤木利尚君、07J1226 兼子恵梨さん、08J1138 福井佑香子さん、08M3251 藤安一輝君、08J1020 小川友理恵さん。彼らの発表も大変優れていて、入賞者に負けないものであり、審査員を苦しめた点も書き添えておきたい。

反復になるが、全体として、各人が十分な「練習」をしてきておりレベルの高い、従って充実した「第15回コンテスト」という15周年の節目の発表会を終えることができた。(常石希望)

日本語部門

外国語コンテスト「日本語部門」は、日本語を母語としない者を対象に開かれています。毎年「留学生の見た日本」というテーマで、自らの体験を盛り込み、身近な出来事から意見や考えを述べるのが課題です。

法・経・現中三学部の1年次の留学生は、毎年全員このスピーチに取り組んでいます。60名前後にもなりますから1年生だけの予選を行います。予選は20名ずつに分かれたクラスごとに行い、それぞれ3名の代表者が選ばれ、計9名が本選に進みました。2年次以上の留学生は、予選を経ず、

直接本選に出場できますが、これまで実際に出場した人はなく、1年生だけのイベントのようになっていました。しかし、今回は1名ですが上級生の参加があり、ここに特筆したいと思います。今後も上級生諸君の参加を期待します。

2009年11月24日、10名の参加者が大勢の聴衆の前にスピーチを競い合いました。

審査は、日本語科目担当教員3名(架谷・鈴木・梅田)、学生審査員2名(留学生・日本人学生ともにスピーチ入賞経験者)、聴衆約50名の投票によって行い、以下3名が入賞しました。

1位	09M3274	楊 銀愛	「日本で得た教訓」
2位	09C8206	姜 珉廷(カ・ミンジョン)	「固定観念を捨てれば…」
3位	09C8195	孫 陽	「先進国の日本」

(敬称略)

「留学生の見た日本」という単一のテーマですが、発表者はそれぞれ独自の着眼点から原稿を書き起こしました。ベットの可愛がる日本人、電車の中の疲れたサラリーマンの居酒屋で陽気に騒ぐ姿とのギャップ、バイト中に優しい言葉をかけてくれるお客さんと外国人とわかったとたんに態度を変えるお客さん...彼らが題材とする日本人は様々ですが、どれも現代日本社会の事実の一部を切り取ったものです。一方、今日本に留学している自分自身の内面にフォーカスしたスピーチも散見され、これも聴衆の共感を呼びました。

スピーチの技術面においては、イントネーション、間の取り方、アイコンタクトなど、聴衆との言語的・非言語的コミュニケーションを各人よく意識していましたが、もっと練習すればもっと良くなるはずだと思われる発表もあり、その点はまだ満点とは言えません。さらなる高みを目指してほしいと思います。

ともあれ、日本語部門に参加できない数多くの日本語を母語とする学生には、ぜひ一人の聴衆として留学生の声を聞きに来てほしいと思います。きっと新しい発見があるはずです。(梅田康子)